

## 2026 年度入学試験問題 出題趣旨（小論文）

本問は、比較経済史と地域研究の重要性に関する文章を素材として、筆者の議論の骨格を正確に読み取り、設問に即して論理的に説明・論述する力を問うものである。

問1では、筆者が批判する素朴な進歩史観や一般法則の演繹による理解に対し、比較がどのようにそれを相対化し、「本当のところはどうなのか」「なぜそうなるのか」という問いを生み出す契機となるのかを、文章全体の論旨に沿って整理し、筋道立てて説明できるかを評価する。

問2では、人間の判断に体系的なバイアスがあることを前提に、本文で論じられる比較研究の考え方を手掛かりとして、思考の偏りを抑えるために必要となる視点や方法論上の留意点を、自分の考えとして具体的に論じる力を評価する。とりわけ、比較における基準や条件の選び方の難しさ、統計・聴き取り等の方法の使い分け、研究者と対象の相互作用がもたらしうる偏りへの自覚、歴史から類推する説得力と危うさといった論点を踏まえつつ、一貫した論証として提示できるかを問う。

以上を通じて、読解の正確さに加え、与えられた概念を用いて論点を整理し、根拠を示しながら説得的に論述する力を総合的に判定することを目的とする。